

令和3年度 さいたま市立大谷場小学校 自己評価書

校長 渡部 智昭 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 子どもたちが安全に生活でき、安心して学習に取り組み一人ひとりが生き生きと活動する学校
→ 「V学校安全」
→ 「I教育課程・学習指導」・特別の教育課程（G・S、『潤いの時間』）の実施状況
- (2) あいさつと花と歌声が溢れ、心が通い合う学校
→ 「VI教育環境」
- (3) ICTの活用により子どもの力を伸ばす学校
→ 「I教育課程・学習指導」
- (4) 学校教育の充実のため、全職員が協働する学校
→ 「II組織運営」「III学年・学級経営」
- (5) 保護者や地域の信頼に応え、進んで連携する学校
→ 「VII地域連携」

2 評価結果について

(1) V学校安全

- ・「安全の日」の安全点検の結果、修繕が必要な個所はすぐに対応し、地域やPTAの見守り活動もあるおかげもあり、安心・安全な学校づくりにつながり、高い評価を得ることができた。

I教育課程・学習指導・特別の教育課程（G・S、『潤いの時間』）について

- ・コロナ禍で学習指導にもまだ制約がある中であったが、工夫した教育活動が展開でき、概ね高評価を得ることができた。しかし、児童の「自分の考えを進んで発表できる」等において「あまりそう思わない・そう思わない」の割合が依然として多くなってしまった。
- ・教科担任制の実施により、より深い教材研究ができ、学習効果が上がった。
- ・特別の教育課程を確実に実施し、コミュニケーションスキルを身に付けさせることができた。

IV生徒指導について

- ・「元気にあいさつをしている」について、昨年と比べると地域の方からの肯定的な回答の割合が増えてきたが、まだコロナ禍で会話を控えるという意識の影響があると考えられる。

(2) VI教育環境について

- ・清掃方法も概ね通常に戻ってきており学習環境を整えることができた。身の回りの整頓については、昨年度に続き課題が残った。

(3) I教育課程・学習指導

- ・ICTの効果的な活用で児童の意欲の向上にもつながり、分かりやすい授業を行うことができた。

(4) II組織運営及びIII学年・学級経営について

- ・学校全体で組織的に対応することができていた。

(5) VII地域連携について

- ・保護者には、工夫して学校の様子を見ていただく機会を作ることができたが、地域の皆様には機会があまりなかったので評価をしていただくことが難しいところがあった。学校の教育活動を分かりやすく保護者、地域の発信していく必要性を感じた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) ・高学年の教科担任制の実施や、ティームティーチングなどを工夫し、児童一人ひとりの個別最適な学びを充実できるようにする。
・「心と生活のアンケート」や「心の日のアンケート」、健康観察などにより児童の様子を注意深く見守り、どの児童にもまんべんなく声をかけていく。また、あいさつ・言葉づかい等については学校だけでなく家庭や地域も協力を仰ぎ、見守り声をかけ、定着を図る。
- (2) 毎日の指導を積み重ね、身の回りの整頓等について確実に身につけさせていく。
- (3) 効果的なICTの活用法を共有し、学校全体でさらなる活用方法を充実させていく。
- (4) 働き方改革の視点を意識しつつ、学校全体で一体となり教育活動を進めていく。
- (5) 学校の様子がより伝わるように、ホームページなどの充実を図る。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。